令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　教育1　医学部教務委員会

医学部教務部長

中間責任者②（部長・委員長等）氏名　岡田　英孝

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	医師国家試験合格率　私立医科大学上位を目指す	①④	4～6学年の成績下位者を対象とした新たなプログラムを教育センターと共同で開講している。		2月8日、9日に行われる医師国家試験の結果確定後に報告・評価を行いたい。	4学年共用試験CBTの結果は芳しくなかった。年度末に向けて、成績の改善を期待する。	D	国試合格率は新卒90.3％となり、全国平均より約5％低値となった。抜本的な取り組みが必要である。
	2	全員進級、全員卒業、全員国家試験合格を目指すための支援策を講じる	②	4～6学年の成績下位者を対象とした新たなプログラムを教育センターと共同で開講している。	C	4～6学年においては成績下位者対象のプログラムを実施、指導を行ったが、留年者が確定し、目標としては達成できない状況となった。今後対応の適切性について教育センターと連携のうえ検証していくものとしたい。	4学年共用試験CBTの結果は芳しくなかった。年度末に向けて、成績の改善を期待する。	C	成績下位者対象のプログラムは着実に実施できたが、結果として十分な成果を得ることができなかった。成績不振に陥る原因究明に加え、指導体制、指導方法等の更なる検討が急がれる。
	3	新カリキュラムの確実な実行	②	カリキュラム2024として新規科目を開講している。電子教科書「iSmart」の導入についても予定どおり運用を図ることができているが、利用率の向上を図る。	B	新規科目である『白衣の日P1』の学生アンケート結果は概ね好評であったことを踏まえ、次年度の新規科目にもつなげていきたい。反面、電子教科書の利用率は残念ながら芳しい結果とは言えなかった。今後の利活用についてFDなどを通じてさらに検討していく。	新規科目の評価や電子教科書の利用率について、最終報告を待つとともに関係各所へのフィードバックを求める。	B	電子教科書は、学生、教員とも利用率が低く、利活用できていない。新年度に向け、対象者への周知徹底のほか、FD実施が求められる。
	4	「医療人としての人間性」評価の具体化	④	令和7年度から、態度・人間性の客観的評価基準・指標の策定に向けて検討を開始する。	A	1月末時点において、令和7年度からの導入に向けてアンプロフェッショナル学生に対する対応を協議し指標策定を進めている。3月にFDを実施予定。	最終報告を待つ。	A	大学として、指標を定めることができた。今後、学生、教職員への十分な説明と適切な運用が求められる。
	5								
期中追加 目標・計画									

令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　教育2　医学研究科教務委員会

医学研究科教務部長

中間責任者②（部長・委員長等）氏名　人見　浩史

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）					**教育研究推進委員会による点検・評価**		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）	**該当事項（※1）**	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
			途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1 修士課程、博士課程の入学定員充足率80%以上を目指す	①②③	修士第一次募集は定員8名に対し4名の出願があった。追加募集でも既に2～3名が出願を検討中である。 博士は今後の募集開始に向けて広報の手法や案内先の精査を行っている。	A	R7年度入学者について、修士は入学辞退などもあり充足率50%となる見込みである。他方で博士は出願者40名と過去5年間で最多となり、国際大学院と合わせると45名以上の入学者を確保できる見込みである。	最終報告を待つ。	A	博士課程は目標を達成できたが、修士課程は50%に留まった。志願者確保に向け、更なる取り組みを期待する。
	2 修業年限内での学位取得の促進	①②③	現状、博士課程において、単位修得者の博士学位取得は前年とほぼ同数である。他方で修業年限内学生は学位申請者が1名にとどまっている。 学位申請の手引きを改訂の上、早期取得の案内を進める。	C	昨年度の修業年限内取得率40%に対し、今年度は最大で44%程度となる見込みである。学位取得の案内、選択必修コースでの研究発表の機会の設定などを進めているが、今後も継続的に取り組みが必要である。	修業年限内学位取得は、情報公開が必須となったことにより、特に重要である。最終報告を待つ。	C	学位取得促進への取り組みが、効果を出しているとは言い難く、講座任せの指導体制からの脱却が求められる。
	3 国際大学院の充実、大学院の国際化の推進	①②③	国際大学院はR6年9月に7名が入学予定であり、新たにインドネシアからの留学生も受入予定である。 さらなる国際化に向け、トリノ工科大学とのダブルディグリー協定を締結し、プログラム開始準備を進めている。	B	国際大学院のR6年9月入学者はセネガルの合格者の入学辞退により5名となったが、新たにインドネシアから入学者を確保した。 ダブルディグリーも運用の検討が進み、開始初年度の定員1名を確保できる見込みである。	最終報告を待つ。	A	国際大学院は認知度の高まりもあり、令和7年度入試にあっては志願者が増えている状況にある。またダブルディグリーも1名の入学者を確保予定であり、着実に国際化を進めることができた。
	4 修士課程の新たな領域の開設検討	③④	今後新設されるメディカルデータサイエンスや医工学センターの教員とともに新たな領域の開設について検討を進める予定である。	C	指導教員は増加し、既存の分野の拡充・見直しに向けた議論も行ったが、新しい領域の構想を打ち出すまでには至っていない。	最終報告を待つ。	C	新設講座教授の着任を待って、対応が進むことを期待する。
	5 博士課程の研究指導体制の見直し	④	選択必修コースの改変、副指導教員制度の導入検討などを進めている。また、リトリートでFDを実施し、研究指導体制の充実に向けた方策を教員、学生双方で議論する予定である。	B	選択必修コースの体制を一新し、担当教員を増やした。また、研究指導充実のため副指導教員制度の導入、学位審査委員の拡充などの検討を進め、R7年度開始に向けた最終調整を行っている。	副指導教員制度の導入は必須。最終報告を待つ。	B	講師以上の教員が大学院教育に更に参画できるよう、体制整備を進めていることは評価できる。着実に運用されることを期待する。
期中追加 目標・計画								

令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　　教育3　医学部学生委員会

医学部学生部長

中間責任者②（部長・委員長等）氏名　谷川　昇

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						**教育研究推進委員会による点検・評価**		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		**該当事項（※1）**	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	大学独自の奨学金制度についての検討。	③⑥	現時点では、検討は行えていないが、年度内には3学部合同での奨学金制度についての検討を行いたい。	A	自己点検・評価委員会の提言を受け、合同学生部長会議において審議・検討を行った。提言には、学生確保のための奨学金制度というところを求められていることから、３学部の学生部の検討ではなく、３学部の入試検討委員会に議論を委ねることとした。	具体案の検討は始まっていない。最終報告を待つ。	A	提言を受けてから審議するまで時間を要したが、議論を経て、結果を出すに至った。
	2	合理的配慮が必要な学生への、円滑な配慮策定にむけ関係各所との連携強化。	②	1学期は医学部学生からの合理的配慮申請は提出されてはいないが、教学的部分を教務課と、心身の不調に関する部分を、学生健康管理室および学生相談室と連携し対応に努めた。今後、配慮依頼が出てきた際を想定し、情報共有を続けていく。	B	3学期には合理的配慮についての書類を受け取りに来たものがあったため、詳細な事務対応について学部事務部と健康管理部が調整を行い、対応に向けて動いている。	最終報告を待つ。	B	医学部において初めての申請があり、現在対応中である。学生への周知と申請を受けた際の速やかな対応が求められる。
	3	課外活動における問題を解消するための適切な大学と学生との関係構築。	③④	コロナ禍を経て、課外活動における学生の距離感や決まりごとの引継ぎなどが行われていないことが散見されるため、年度末に向けて、大学とクラブ主将・顧問への説明会実施のために検討をすすめている。	A	今年度、主将と会計に参集してもらい、クラブに対する補助金の考え方や課外活動における注意事項、遵守事項を説明する機会を持ち理解を深めてもらえた(1/30実施)	最終報告を待つ。	A	引き続き、適切な距離感を保ちつつ、支援を続けることが求められる。
	4	自習室の適切かつ活発な運用への補助実施。	②	自習環境向上のため、随時学生から現状と課題を聞き取り、可能な部分については改善するよう補助を行っている。	B	利用状況については6学年自習室においてあまり芳しくない報告もあったものの、その状況を踏まえ大学と学生の意向を融合する形で次年度の利用についての取り決めを行うことができた。	自習室利用状況を把握し、適切に運用できているかについて、最終報告を待つ。	B	自習室利用の取り決めを策定し、学生の利用率向上を目指したが、学生側の反発もあり効果的に利用されなかったのは残念である。次年度に期待する。
	5								
期中追加 目標・計画									

令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　教育4　看護学部教務委員会

看護学部教務委員長

中間責任者②（部長・委員長等）氏名　李錦純

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						教育研究推進委員会による点検・評価		
		目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）	該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	就学年数5年以上の学生及び成績不振学生への組織的な教育支援体制を強化する。	①②③	・GPA2.0未満の成績不振学生および過年度生全員を対象に教務委員による個別面談を実施、ケースによっては保護者を含めて面談を実施し学習状況の把握と課題の明確化を行った。引き続き履修状況を把握しながらチューターおよび国試対策委員と連携し、支援体制強化を図っていく。 ・既修得科目の聴講制度利用状況を調査し積極的な活用を促した。 ・不合格者対応のため、今年度より学年末の成績評価を年度内に提示とし、判定時期の早期化に取り組んだ。	A	・GPAを基準とした成績不振学生および過年度生に対する個別面談の実施、履修上課題がある学生に対する学生委員会、学年担任、チューター、国試対策委員と連携した相談支援、保護者懇談会における学習状況説明と希望者への三者面談対応を行った。 ・教育支援の一環である既修得科目の聴講制度の利用状況の調査を実施、結果をふまえて活用を促し、今年度4名の申請があった。 ・成績評価を年度内公表として不合格学生へ早期対応ができるよう、スケジュール調整および成績閲覧方法のマニュアル整備、学生への説明会を実施し、運用体制を整えた。 ・昨年度導入したe-ポートフォリオを今年度も活用し、継続的な教育支援を行っている。 以上の通り、組織的な教育支援体制の強化に取り組んだ。	各種取り組みに対する評価は、最終報告を待つ。	A	既存制度を有効に活用しつつ、個別の学生対応により組織的に教育支援が行われている。将来的には当該学生数の減少など、実際の効果として現れることを期待する。
	2	新カリキュラム「卒前インターンシップ」の目的性、単位数見直しの必要性を検討し、卒業時の基礎看護技術習得向上と評価の体系化を目指す。	①②	新カリキュラムで1単位となる当該科目の単位数の見直しを検討中である。見直しまでの期間は、目的性に沿って内容の補完と充実に向けて対応を進めている。	S	・新カリ「卒前インターンシップ」の目的性を鑑み、臨地実習委員会と連携を図りながら、1単位2週間の臨地実習期間を設定して、旧カリと遜色ない内容で展開できるよう体制を整えた。 ・卒業時の基礎看護技術習得向上に向けて、1年次および4年次に実施している基礎看護技術評価を今年度も継続的に実施し分析中である。分析結果に基づき、2・3年次にも技術評価を導入するか検討し体系化を図っていく。	最終報告を待つ。	S	卒前インターンシップに関する体制整備や基礎看護技術評価の運用が順調に進んでいる。
	3	日本看護学教育評価機構（JABNE）の受審による教育評価の可視化とカリキュラムの課題を明確化する。	①②	令和5年度末にJABNEへ自己点検・評価報告書を提出、現在、8月に受領した質問書の回答への対応を行っている。また、10/1の実地調査に向けて諸準備と調整を進めている。	S	JABNEを受審の結果、適合の評価を受けた。1～4年次までの通年科目「地元創成看護論実習」の展開やシミュレーション教育の充実、学生への教育支援体制と学習環境の整備が高く評価された。反面、卒業時到達レベルの評価として卒業生全体のディプロマ・ポリシーの達成状況の組織的分析が必要との課題が示され、早急に対応を進めていく予定である。	最終報告を待つ。	S	JABNEの受審が完了し、カリキュラム上の課題も明確となったため、十分に目標が達成されている。
	4	OSCEの充実と評価体制の見直し、令和7年度より導入するCBT運用準備をOSCE班およびシミュレーション班等関連プロジェクトとの連携で整える。	①②⑤	・7月28日に、OSCE班主導で全教員参加による体系的な分野・領域横断型のOSCEを実施した。 ・CBT導入に向けて、研修等による情報収集と本学カリキュラムにおける運用上の課題整理を行っており、関係各所との連携を図るべく検討を進めている。	B	今年度も各分野・領域の演習科目でシミュレーション教育を実施、全教員参加による4年次OSCEを実施し、内容を充実しつつ継続して組織的に取り組んだ。令和7年度は2学期・4ターム制導入初年度であることを鑑み、3年次CBT・OSCEを令和8年度導入とし、今年度は情報収集と本学導入における課題整理を中心に取り組んだ。令和7年度は、上記に加えて評価体制の見直しを含めた具体的な運用体制の構築と整備を推進していく。引き続き、OSCE班およびシミュレーション班等関連プロジェクトと連携を図る。	最終報告を待つ。	B	OSCEとCBTに関する組織的な検討が進んでいる。令和8年度の3年次CBT、OSCEの導入に向け、引き続き運用整備が進むことを期待する。
	5	令和7年度より導入する4学期制・90分授業への移行に向けて、カリキュラムの運用・再構築を推進する。	①②	教務委員会内でワーキング・グループを結成し、具体的な移行準備と時間割調整に取り組んでいる。実習期間については先行して確定し、実習施設との調整に入っている。9月よりカリキュラム検討委員会と連携を図り円滑な運用に向けてさらなる検討を進める予定である。	S	11月の教授会にて学期制変更に関する学則変更の承認を得た。また、2学期・4ターム制、90分授業導入に向けて、学事暦、カリキュラム進度表およびカリキュラムツリー、時間割の再編成、ターム科目の設定、学内外の非常勤講師対応、全学生への説明がほぼ完了した。また、旧カリ学生の教育的支援が継続的に実施できる体制を整え、運用の準備体制は整備された状況である。	学期制の変更については、学則変更が必要になるため、年内の決定を求める。	S	学期制の変更及びこれに伴う様々な準備が完了しており、当初の目標を達成できている。
期中追加 目標・計画									

令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　教育5	看護学研究科教務委員会
	看護学研究科教務部長
中間責任者②（部長・委員長等）氏名	瀬戸奈津子

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						教育研究推進委員会による点検・評価		
		目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）	該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	大学院の拡充と大学院生の確保ならびに収容定員の管理	①②⑤	・8月20日（火）大学院カリキュラム検討委員会にて博士後期課程教育研究コースに加え、博士前期課程高度実践看護師コース修了生の進学を見据えたDNP（Doctor of Nursing Practice）コース設置検討開始	B	・2025年1月21日（火）大学院カリキュラム検討委員会にてDNP（Doctor of Nursing Practice）コース開設に向けた情報収集・分析結果・進捗状況を共有済み。プロジェクトを設置、附属医療機関看護部と連携のもとカリキュラムを構築し、2027年度開講予定	最終報告を待つ。	B	新たな取り組みとしてDNPコースの計画が進んでおり、今後の大学院生の増加に繋がることを期待する。
	2	看護学部キャリア支援委員会との協同による学部生の博士前期課程進学支援	②⑥	・4月4日（木）キャリア支援委員会3年生オリエンテーションにて進路情報を提示し、6月24日（月）第1回進路ガイダンスにて博士前期課程についての説明および入試説明会日程を案内済（中間報告時記載漏れのため記載）	B	・進路選択のタイミングから、6月24日（月）以降、全体への案内はしていないが、次年度以降も継続的にガイダンスに取り入れていく予定	更なる取り組みを期待する。	B	継続的な進学支援が実施されているが、更なる取り組みに期待する。
	3	看護キャリア開発センター・附属施設看護部との連携による博士前期課程進学支援	②③④	・附属病院看護師長会にて5月18日（土）10:00～の大学院（夏期日程）入学説明会案内済 ・7月20日（土）14:00～看護キャリア開発センター・附属施設看護部と連携し、博士前期課程進学支援研修会を開催済（中間報告時目標2に記載していたが3に該当するため移動）	B	・2025年2月8日（土）看護部看護研究交流会にて附属施設看護部と連携し、看護研究に関心のある看護師に向けて博士前期課程進学についての情報提供予定	更なる取り組みを期待する。	B	附属施設看護部とも連携しつつ、積極的な取り組みが行われている。目標1・2と併せて、引き続き大学院生確保に向けた取り組みが進むことを期待する。
	4	博士後期課程学位取得率促進への取り組み	③⑥	・博士前期課程・後期課程ともに修了年限内に修了できるよう6月4日（火）14:00～論文ガイダンス実施済	B	・2020年からのコロナ禍の影響にてデータ収集等研究遂行に時間を要し、現在修業年限を超える学生が複数在籍している。指導体制を強化するとともに、今後に向けて長期履修制度を見直し、2月の研究科委員会にて審議予定	修業年限内学位取得は、情報公開が必須となったことにより、特に重要である。最終報告を待つ。	B	制度の見直しや指導体制の充実など、今後も組織的な取り組みが求められる。
	5	ディプロマ・ポリシー達成のための教育および学生支援の実施（学習成果可視化の取り組み）	⑤⑥	・9月3日（火）16:00大学院教務委員会にてディプロマ・ポリシー達成のための学習成果可視化の取り組みについて検討予定	A	・KMULAS上のeポートフォリオ機能を活用し、ディプロマ・ポリシー達成状況がレーザーチャートで把握できるシステムを構築。2025年1月7日（火）大学院教務委員会の承認を得て入力マニュアルを作成し、2月に大学院1年生にガイダンスを行い、導入予定	最終報告を待つ。	A	eポートフォリオを活用した学習成果可視化の準備が順調に進んだ。
期中追加 目標・計画									

令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　教育6　看護学部学生委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名　看護学部学生部長　大橋　敦

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	教育理念に則った充実した生活支援により4学年全員の卒業を目指す	①②	・4学年全員の卒業に向けて、個別の相談への助言など各学生のチューターならびに実習指導教員より十分な生活支援を行っている	B	・4学年全員の卒業に向けて担任やチューターや実習指導教員などが、教育理念に則った個別の相談への助言や各学年への細やかで丁寧な生活支援を行った。 ・教務委員会と連携し、成績不良者に対して、担任･チューターが個別に支援した。	最終報告を待つ。	B	担任やチューターなどによる個別支援が行われている。継続的な取り組みが求められる。
	2	看護学部の担任・チューター制度の充実とともに、保護者会とのさらなる連携を目指す	②③	・看護学部の担任、チューターにより4月のオリエンテーションの運営と個別の面談が円滑に行われた ・問題を抱えた学生については、担任とチューターが、学生部長、教務部長、事務部関係者らと連携したうえで個別面談を行っている ・保護者会総会が6月15日に開催された ・保護者との連携のために、11月初旬予定の「保護者懇談会」の意義と参加を促す説明を行った	C	・各学期の開始時と終了時に学年オリエンテーションを時間割に明記し、担任とチューターが学生支援や個別面談を行った。 ・問題を抱えた学生への個別面談は、学年担任、チューター、学生部長、教務部長、事務部関係者らと連携したうえで行った。また、健康問題に影響を及ぼしている学生には、保健室と連携した。 ・保護者会総会を6月15日に開催し、その後11月2日に保護者との連携のために保護者懇談会を開催した。保護者懇談会では、各学年の担任からの状況報告と個別面談を希望する保護者には担任やチューターが担当した。 ・担任･チューター制に対する学生からの評価が実施できていないので、次年度の実施に向けて検討している。	特に担任・チューター制度に関する評価について、最終報告を待つ。	C	教職員が連携しつつ個別面談なが行われ、保護者も交えた支援が行われた。学生からの評価を参考としつつ、担任やチューター制度のさらなる有効活用が期待される。
	3	大学独自の奨学金や特待生制度、ならびに外部給付金などにより経済面での学生生活を支援する	④	・本学独自の奨学金や特待生制度、外部給付金（日本学生支援機構、西村奨学財団）について、4月のガイダンスで紹介し、経済的に困窮な状況にある学生の支援を行っている（2024年度のべ209名）	B	・本学独自の奨学金や特待生制度、外部給付金（日本学生支援機構、西村奨学財団）について、4月のガイダンスで紹介し、経済的に困窮な状況にある学生の支援を行った（2024年度のべ308名）。	最終報告を待つ。	B	各種奨学金に関する適切な案内が行われている。
	4	本学附属施設への就職率70％以上を目指す	②④	・本学附属施設の説明会が行なわれ、本学附属施設の就職試験もすでに終了し約7割の学生が就職予定である ・本学附属病院独自の貸与奨学金について説明を行った	B	・1月末の時点で61名（68％）の学生が本学附属施設に就職予定である。 ・3年生の進路意向調査においても87％の学生が本学附属施設への就職を希望している。	概ね達成。	B	目標が概ね達成されている。
	5	学生部との連携を強化し、全学的な学生支援への取り組みを目指す	⑤	・学生部と連携して、4/18～19に3学部合同新入生合宿を実施し、学部間の交流を促進した	A	・学生部と連携し、各学部の実習･演習に影響しないインフルエンザワクチンの接種日程を調整した。	合同新入生合宿以外のことについても、最終報告を待つ。	A	引き続き学部間の連携を期待する。
期中追加 目標・計画									

令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　教育7　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部教務委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部教務部長　佐藤　春彦

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		該当事項(※1)	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価(※2)	部門講評		評価(5段階)	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	PT・OT国家試験合格率100％を目指した成績不良学生の学習進捗状況の把握と支援体制の構築	①	９月の模試にて成績下位の学生はメンターの対面指導により学習状況を把握する。	C	作業療法学科はメンターと学生の指導だけでなく、学生どうしで教えあうグループ学習を進め、模試の成績向上が見られている。また成績結果によりグループ替えも行うなどの工夫をしている。理学療法学科ではメンターの指導により成績が向上する学生もいたが、危機感が感じられず低迷したままの学生も存在した。学生同士が助け合うピア・サポートの導入に向け、クラスの一体感を醸成したい。	特に担任・チューター制度に関する評価について、最終報告を待つ	A	国家試験対策の体制は構築できたと思われるが、国家試験合格率等をもとに、次年度以降に現行の体制が適切かの検証を行い、引き続き支援について検討が求められる。
	2	臨床実習における学生・実習指導者・教員の連携強化	②	臨床実習中は学生にメールで状況を報告させた。また、問題があれば即座に教員と指導者が対応に当たった。	C	深刻な問題を抱える学生に対応する教員の負担がかなり大きい。複数での対応を行うなど教員間での連携を強め、一部の教員のみが対応に当たる体制を改めたい。	最終報告を待つ。	A	情報共有が出来たことは評価できる。今後は具体的支援について検討が必要である。
	3	成績不良者の早期発見と支援体制の構築	③	前期試験での成績を加味してグループを編成し、上位の学生が下位の学生を助けるような支援体制の構築を促す。	B	作業療法学科では国家試験対策をグループで実施し、模試での成績向上が見られてた。理学療法学科では一部グループのみの実施にとどまった。	グループ学習の成果について、最終報告を待つ。	A	模試の成績向上については評価できる。次年度以降も、グループ学習の効果について検証が求められる。
	4	ICTを活用した自習システムの充実	④	ＦＤでＫＭＵＬＡＳによる自習支援の講習会を実施した。	B	５月２８日にKMULASによる学習支援の講習会、１１月２６日に教員講習会受講者によるコーチングに関する講習会を実施した。	最終報告を待つ。	S	今後も教員による自習システムの充実に努め、次年度以降も継続願いたい。
	5	進級制度を設けた新たなカリキュラムの策定	④	理学療法学科では新カリキュラムの実施に合わせて３年の進級に単位取得要件を設けることとした。	A	臨床実習参加の可否のため設けている「履修要件」と新たに設ける「進級要件」の２つの関門を前に、学生が学習意欲を失うことのないよう「仮進級」も設けた。	最終報告を待つ。	B	進級制度が学生の学習意欲の向上につながるのか、「仮進級」の制度を含め、次年度以降の報告を待つ。
期中追加 目標・計画									

令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　教育8　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部学生委員会

ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部学生部長

中間責任者②（部長・委員長等）氏名　吉村　匡史

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						**教育研究推進委員会による点検・評価**		
		目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）	**該当事項（※1）**	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	学生の意見に基づく学生生活への支援による、国試合格率100%を目指し得る環境整備	①	学生との意見交換会の開催（6月28日）と意見箱に寄せられた意見への対応を通して、環境整備を図っている。	B	学生との意見交換会を2回開催した。意見箱には現時点で10件の意見が寄せられており、実現可能な意見については順次対応し、実現不可能な意見についてはその理由を説明している。	最終報告を待つ。	A	学生の意見に真摯に対応していることは評価できる。
	2	国家試験対策と就職対策に向けた学生のメンタルヘルスへの配慮	②	各メンター・担任教員および保健室との連携により、メンタルヘルス不調の学生への配慮内容を検討している。	A	定例の学生委員会、もしくは必要時に随時教員と保健室が情報共有を図っている。	最終報告を待つ。	A	教員と保健室が情報共有していることは評価できる。
	3	学生食堂の待ち時間短縮、メニューの充実などによる学生満足度の向上	③	学生からの意見やアンケートを通して満足度向上を図っている。値下げに関しては保護者費からの援助も受けている。	B	学生からの要望に応じて業者と交渉を継続している。保護者費の援助も引き続き仰いでいる。	満足度の結果について、最終報告を待つ。	B	継続的に業者と交渉していることは評価できる。今後満足度の情報等について報告願いたい。
	4	完成年次の到来による学生数の増加に見合う学習スペース確保への配慮	⑤	図書委員会と連携し、図書館内の環境整備を継続している。	C	キャリア支援委員会、図書委員会と連携して現有施設で可能な限りの環境整備を行っているが、学舎内の室数やスペースの問題などから達成はできていない。	学習スペースの利用状況を把握し、適切に運用できているかについて、最終報告を待つ。	C	運用面で学習スペースを確保できない場合の代替案を可能であれば検討願いたい。
	5	大学全体としての奨学金制度に関する必要性を含めた検討	⑥	当学部の実情に応じた奨学金制度を検討し、大学に提案することを考慮する。	C	検討の結果、当学部独自の奨学金制度施行は現在のところ困難であるため、現在申請可能な奨学金制度の周知と運用を継続する。	最終報告を待つ。	C	学部独自奨学金について、現行可能な制度について引き続き、検討願いたい。
期中追加 目標・計画									

令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　教育9　教育センター

教育センター長

中間責任者②（部長・委員長等）氏名　西屋　克己

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		該当事項(※1)	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価(※2)	部門講評		評価(5段階)	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	「全員進級・全員卒業・全員国試合格」を目指した教育体制の構築に取り組む	②③	各種模擬試験の当日受験を必須化し学習到達を分析するとともに、国家試験対策講義を計画的に開講し、進級・卒業および合格率向上に努めている。また、予備校担当者および国試対策に特化したメンターによる学生面談の充実・強化を図っている。	B	新カリキュラム2024、4年生からの成績不振者プログラム「Sクラス」、そして国試対策プログラムを通して、「全員進級・全員卒業・全員国試合格」を目指した教育体制を構築している。今後、構築したカリキュラムが「全員進級・全員卒業・全員国試合格」を達成できているかの検証を行い、カリキュラムを修正していく。メンター制度については、現在メンターに対し、意見聴取を行っており、その意見も踏まえ、次年度に向け、より良いメンター制度を構築する。	特にメンター制度に関する評価について、最終報告を待つ。	C	成績下位者対象のプログラムは着実に実施できたが、結果として十分な成果を得ることができなかった。成績不振に陥る原因究明に加え、指導体制、指導方法等の更なる検討が急がれる。
	2	新カリキュラム2024の確実な実行を支援する	②	6月27日にカリキュラム評価委員会を開催し、現状の確認および検討を行った。今後に向けては、カリキュラム検討委員会や教務委員会において、検討を進める。	A	今年度より「新カリキュラム2024」が開始され、その中では「白衣の日P1」が大きな支援対象であったが、学生の満足度も高く、十分な支援ができたと考えている。	最終報告を待つ。	A	新設科目は概ね学生の満足度が高い結果となった。次年度新設する「白衣の日P2」にも期待する。
	3	メンター制度2024を開始し、実効性のあるメンター制度を実施する	②④	学習支援部会において、現状を共有しながら、改善点を検討している。	C	メンター制度について、大幅な見直しを図り、遂行したが、様々な課題が浮き彫りとなった。現在メンターに対し、意見聴取を行っており、その意見も踏まえ、次年度に向け、より良いメンター制度を構築する。	メンター制度に関する評価について、最終報告を待つ。	C	メンターにより、活動内容にバラツキが見られ、それが学生の不満につながった面があった。より良い制度構築が求められる。
	4	教員の能力を計画的に向上させるFDの実施体制を構築する	②⑤⑥	FDの充実を図るべく、8月26日にFD小委員会を開催し、検討した。	B	大学院総合講義や研究トークランチをFD認定し、教員の参加率の向上を図った。年度内には、3学部合同FDを実施する予定である。今後もニーズのあるテーマを模索し、FDとして取り扱う予定である。	最終報告を待つ。	B	３学部合同FDの実施は評価できるが、年度当初に年間スケジュールを立て、実施していくことが今後望まれる。
	5	3学部のデータ分析を支援する体制を構築する	②	今後会議を開催し、検討を行っていく。	C	一部の教学データに関して、3学部のデータ分析を支援する体制を構築し始めている。しかし、不十分であり、DX推進室と連携し、教育DXの取り組みを具体化する準備を進めている。	最終報告を待つ。	C	全学的なIR活動はできなかった。教学IRの強化が求められる。
期中追加 目標・計画									

令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　教育10 国際化推進センター管理運営委員会

国際化推進センター長

中間責任者②（部長・委員長等）氏名　友田　幸一

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）					**教育研究推進委員会による点検・評価**		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）	**該当事項（※1）**	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
			途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1 国際大学院の提携先を増やし、定員を確保する。	①②③	ベルン大学、パドヴァ大学、ベネチア大学他との協定締結を視野に進めている。	S	ベルン大学他計6大学・病院等と新規締結済み。パドヴァ大学他計5大学と新規締結進行中。	R6は定員未充足。次年度に向け改善を求める。	B	R6は定員を満たしていないため、次年度の活動に期待する。
	2 新規海外協定校を増やし、学外臨床実習施設を拡大する。	①③		S	看護学部とミネソタ州立大学との包括協定締結済み。	最終報告を待つ。	B	協定校は増えているが、学外臨床実習施設の拡大には至っていないため、対応が急がれる。
	3 THE世界ランキング2025に向けて評価項目に準じた対策を検討する。	①②③	ランキング向上のための分析ツール購入を検討している	A	分析ツールを購入。競合大学を分析・評価し、今後の広報戦略に活用する。	最終報告を待つ。	A	ランキング向上のため準備が整った。効果的な活用が求められる。
	4 外国人患者受け入れ体制の強化に協力する。	③	インバウンド受入れ分科会に出席	A	分科会に4回出席。外国人患者受け入れ体制強化に尽力した。	最終報告を待つ。	B	分科会に出席した結果、具体的にどのような強化ができたのか不明である。
	5 国際交流ジャーナル、国際交流10周年記念誌の発行。	②	今年度発行に向け進めている。	A	国際交流誌、国際交流10周年記念誌とも年度内発行の見込み。	最終報告を待つ。	A	問題なく対応できた。
期中追加 目標・計画								